瀬戸内国際芸術祭 2022

Setouchi Triennale 2022

新規作品出展作家

（2021 年 11 月 9 日現在）

SETOUCHI
TRIENNALE
2022

A

Photo by Hadija Aliyeva

ファイグ・アフメッド

Faig Ahmed

1982 年、アゼルバイジャンのバクー生まれ。2007 年のヴェネチア・ビエンナーレにアゼルバイジャン代表として参加するなど、国際的に活躍しているアーティスト。彼は、伝統的な装飾工芸やカーペットなどの視覚的言語を現代的な彫刻作品に応用したコンセプチュアルな作品で知られている。彼の作品は、伝統や固定観念を分解することで古代の工芸品を再構築し、新たな視覚的境界を作り出そうとする。

マナル・アルドワイヤン

Manal AlDowayan

1973 年、サウジアラビア生まれ。変化（変質）することを主なテーマとする。サウジアラビアの女性たちの状況に大きく影響を与えている性差別の風習を長い間調査することで、王国を飲み込むかのような文化の変化を鋭く、かつ批判的に分析し、個人と政治の領域の重なる部分を表現する。また、彼女の作品は社会的正義や記憶と忘却に対する苦悶との出会いのような自身の経験にも根ざしている。北アルプス国際芸術祭 2020-2021 参加。

B

撮影：砺波周平

青木 野枝

Noe Aoki

武蔵野美術大学大学院修了。活動初期より、工業用の鉄板を円などの基本となるかたちに切り出し、それらをつなぎ合わせるように溶接した彫刻作品を手がける。“場”を深く観察し、可視、不可視に関わらずそこに存在するものを取り込んだ作品は、素材本来の硬質感や重量感、彫刻＝塊という概念をも越え独自の世界を構築して空間を変容させていく。近年は石膏、ガラスなど異素材の作品も発表。主な受賞歴に、芸術選奨文部大臣賞、毎日芸術賞、中原悌二郎賞。

Photo by Margherita Zazzero

マッシモ・バルトリーニ

Massimo Bartolini

1962 年、チェチーナ（イタリア）生まれ。以来、当地を拠点に活動。1993 年以降、イタリア国内外で数多くの展覧会やグループ展に参加している。日本では主に、横浜トリエンナーレ 2011、大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2012 に参加した。

C

photo by Ininaa Camp

ソカリ・ドグラス・カンプ

Sokari Douglas Camp

1958 年、ナイジェリア生まれ。イギリスでも活動する。セントラル・セント・マーチンズでファインアートを、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートでデザインを専攻。国立アフリカ美術館（アメリカ）、スミソニアン博物館（アメリカ）、Museum of Mankind（イギリス）など、国内外の多くの美術館で個展を開催。環境活動家ケン・サロ・ウィワの記念碑《Battle Bus: Living Memorial for Ken Saro – Wiwa》（2006）などのパブリックアートも多数制作。また、ロンドン芸術大学 SOAS 名誉フェローシップも務める。

D

ニコラ・ダロ

Nicolas Darrot

1972 年、フランス生まれ。現在はパリを拠点に活動。彫刻、インスタレーション、自動で動くオブジェ等、幅広く制作している。科学、歴史、神話、文学などを参照し、科学者と制作することもある。大地の芸術祭越後妻有トリエンナーレ 2018、2021（新潟）、北アルプス国際芸術祭 2020-2021（長野）で作品を出展している。

ディディエムワイ・スタジオ

DDMY STUDIO

2010 年にタイ・チェンマイにて設立された、Nakarin Rodput（1981～）と Araya Suwan（1987～）、Terdpong Pongjinda（1990～）から成るチーム。チェンマイとバンコクを拠点とし、地元企業、NGO、政府機関、アーティストと協力して活動中。ドキュメンタリー、モーショングラフィックなどの映像制作を中心に、メディアインスタレーション、テクニカルサービス、作曲、サウンドデザインなどを行っている。彼らはインタラクティブなもの、人々がどのように一緒に参加するのかということに興味を持っており、人々に新たな認識を与えることができるアートプロジェクトに焦点を当てている。

ウィム・デルボア

Wim Delvoye

1965 年、ベルギー生まれ。日本では横浜トリエンナーレ 2014 への参加経験を持つ。バロックやゴシックといった古典的な芸術様式に倣う一方で、独特で衝撃的、挑発的かつ物議を醸す作品も発表している。

土井 健史
Takefumi Doi

1974 年奈良県生まれ。
現在、大成建設株式会社設計本部に所属。

E

スタシス・エイドリゲヴィチウス
Stasys Eidrigevičius

1949 年、リトアニア共和国生まれ。1980 年より、ワルシャワ（ポーランド）を拠点に活動する。1986 年にシカゴとロサンゼルスで開催された個展のほか、1988 年の国立ヴロツワフ美術館での回顧展や、1993 年のヴィリニュス・モダン・アートセンターでの回顧展など、世界各地で個展を開催する。日本でも「ファーレ立川」（1994 年）や「大地の芸術祭」（2000 年）に出展する。2019 年、ポーランド共和国の繁栄に貢献した人物に対して贈られるコマンドール十字勲章を受賞。絵画、版画、挿絵、彫刻、写真、インスタレーションなど、多方面に活動を展開している。

Photo by Serdar Tanyeli

アイシャ・エルクメン
Ayşe Erkmen

1949 年、イスタンブール（トルコ）生まれ、ベルリン（ドイツ）、イスタンブール在住。現地の社会的および物理的な環境を背景として既存の構造や状況に入り込み、新たな解釈を与えるような作品を展開する。生命と芸術を混ぜ合わせ、日常的な空間や物、状況と関係を入れ換えることで曖昧な空間を生み出す。観客や参加者がいて初めて作品が完成するような、現実社会へと展開する作品を制作する。いちはらアートミックス 2020 ＋（千葉）、大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2015（新潟）参加。

F

ムニール・ファトゥミ
Mounir Fatmi

1970 年モロッコ、タンジェ生まれ。少年時代をタンジェで最も貧しい地域の一つであるカサバラタのフリーマーケットで過ごす。そのような環境では、廃棄物や使い古された日用品が山ほど発生する。機能しなくなったメディアや消費社会崩壊の影響を受け、作家はアーカイブと考古学の間に位置するような状態の作品の概念を展開している。

藤野 裕美子

Yumiko Fujino

1988 年滋賀県生まれ。

空家や廃村でのリサーチをもとに作品を構想。岩絵具や麻紙、箔などの日本画材を用い、絵画をベースとした作品を会場での展示形態も含めて構成する。

【主な展覧会】

2021　ARTISTS' FAIR KYOTO 2021（京都府京都文化博物館 / 京都）

2021　日日の観察者 Observers of Everyday Life（HOTEL ANTEROOM KYOTO GALLERY9.5、京都）

2020　滋賀近美アートスポットプロジェクト Vol.3 エンドレス・ミトス（滋賀）

2020　過去の滞在 / 藤野裕美子 個展（Gallery Den mym/ 京都）

2019　瀬戸内国際芸術祭（香川）

2017　飛鳥アートヴィレッジ（奈良）

藤原 史江

Fumie Fujiwara

1976 年愛知県生まれ。

【主な展覧会・受賞】

2019　「第 22 回 岡本太郎 現代芸術賞展」観客投票 3 位 (川崎市岡本太郎美術館、神奈川)

2019　あいちトリエンナーレ関連企画「情の深みと浅さ」展 (ヤマザキマザック美術館、愛知)

G

©LydieNesvadba

ケンデル・ギール

Kendell Geers

1968 年、南アフリカ生まれ。ベルギー在住。アフリカで最も有名なアーティストの一人であり、ハウス・デア・クンスト（ドイツ）、ポンピドゥーセンター（フランス）、グッドマンギャラリー（南アフリカ）、ストックホルム美術館など、世界各地の美術館・ギャラリーで作品が展示されている。反アパルトヘイト運動での経験から、物、材料、イメージ、サイン、シンボルを用いて、ミニマリストの規範をテロリアリズムと呼ぶものへと変化させる、電気を用いたインスタレーションや、パフォーマンス、写真、彫刻を発表している。2000 年の大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）に参加。

ゲゲルボヨ

Gegerboyo

2017 年に 5 人のアーティストによって結成されたジャカルタ・インドネシアを拠点にするアーティストグループ。社会的、政治的な現象を日常的な主題を用いて批判する作品が多く、同時に、ジャワの文化や伝統、現代の都市空間を反映した作品も多く発表している。

フリオ・ゴヤ

Julio Goya

1953 年アルゼンチン共和国ブエノスアイレス生まれ。 1985 年に来日して以来、ロダン大賞展美ヶ原高原美術館賞受賞、サントリー美術大賞入賞、フジサンケイビエンナーレ現代国際彫刻店優秀賞受賞など、さまざまな賞を受賞。 現在は沖縄に在住し活躍中。

【主な展覧会】

2015　画廊 TAO（東京）

2015　画廊 ATOS（沖縄）

2014　沖縄科学技術大学院大学（沖縄）

2014　画廊グレゴリオ（京都）

GREEN SPACE

Green Space

代表：辰己耕造

造園を生業とする家に生まれ、2015 年から父がつくった会社である㈱グリーンスペースオオサカの代表に。

主に個人邸や店舗の庭を設計すること、つくること、そしてつくった庭をお手入れすることを中心に活動。その他にも「たくさんの方に庭に触れていただきたい、植物に興味を持っていただきたい」という思いから、庭に関する講演・苔玉づくりなどの ワークショップ・古庭園案内ツアー・トークイベント・室内空間でのインスタレーションなど、庭や緑に関する様々な活動を行う。

H

林 恵理

Eri Hayashi

1990 年鳥取県生まれ。

【主な展覧会】

2021　「glassjam」（Galerie erstererster、ドイツ）

2021　「take-off, Meisterschüler*innen der Burg」（Burg Galerie im Volkspark、ドイツ）

2021　「Glass Works. European Glass Lives in Craft, Art and Industry」（Veste Coburg、ドイツ）

2020　「ポーラミュージアムアネックス展」（ポーミュージアムアネックス、東京）

日比野 克彦

Katsuhiko Hibino

1958 年、岐阜県生まれ。東京芸術大学大学院修了。在学中に「段ボール」を用いた作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、舞台美術、パブリックアートなど、多岐にわたる分野で活動中。近年は、各地で一般参加者とその地域の特性を生かしたワークショップを多く行っている。東京芸術大学教授。1982 年第 3 回日本グラフィック展大賞、1983 年第 30 回ＡＤＣ賞最高賞、第 1 回 JACA 展グランプリを受賞。1986 年シドニー・ビエンナーレ、1995 年ヴェネチア・ビエンナーレに出品、1999 年度毎日デザイン賞グランプリを受賞。2003/12/15/18 年に大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ、2013/16/19 年に瀬戸内国際芸術祭に参加。

ひびのこづえ

Kodue Hibino

静岡県生まれ。コスチューム・アーティストとして広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなどその発表の場は多岐にわたる。ＮＨＫ Ｅテレ「にほんごであそぼ」のセット衣裳を担当中。歌舞伎「桜の森の満開の下」野田秀樹作・演出の「Ｑ」ダンス「サーカス」新国立劇場、「不思議の国のアリス」など多数の舞台衣装を担当。

【主な展覧会・プロジェクト】

2019　瀬戸内国際芸術祭（香川）

2018　大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

2017　奥能登国際芸術祭（石川）

保科 豊巳

Toyomi Hoshina

1953 年長野県生まれ。現在、東京芸術大学名誉教授・京都芸術大学特任教授。

【主な展覧会】

2018/20　個展「黒い光」（コバヤシ画廊・梅野絵画記念館）

2017/18/19　天空の芸術祭（長野）

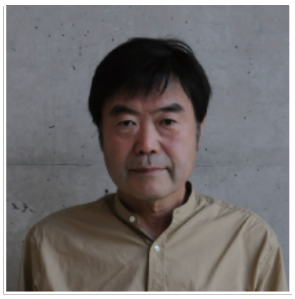
2019　開化寺高平当代芸術展（中国）

2019　瀬戸内国際芸術祭（香川）

2018　香港アートフェア（香川）

2000/03/15　大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

I



伊東 敏光＋広島市立大学芸術学部有志

Toshimitsu Ito + Faculty of Arts, Hiroshima City University

・伊東敏光：1959 年千葉県生まれ、広島県在住。

2018　個展（FEI ART MUSEUM YOKOHAMA、神奈川）

平昌文化オリンピックイベント「FIRE ART FESTA - 献火歌 -」（鏡浦海岸、江陵、韓国）

・広島市立大学芸術学部有志：2014 年結成

広島市立大学芸術学部教授・伊東敏光と学生有志による制作チーム。構想とデザインの原案は伊東が行い、実施プランの作成と実作業は協働で行う。

2019　瀬戸内国際芸術祭（小豆島、香川県）

2018　三都半島アートプロジェクト「野生のハナ」（小豆島）

K

香川大学「瀬戸内の伝統生活文化・芸術発信プロジェクト」

Kagawa University Project (Kenji Wakai)

・代表：若井 健司

高松からの芸術発信・交流活動を 2005 年から開始。ニューヨークのオーケストラとの異文化交流事業（落語とオペラ）、四国二期会オペラ公演、サンポートホール高松の記念事業（Die Fledermaus、カルミナ・ブラーナなど）、新作オペラ「扇の的」（ブルガリア・スタラザゴラ国立歌劇場での招聘公演）などのプロデュース・演出・演奏に取り組んできた。瀬戸内海での源平合戦絵巻 3 部作となる新作オペラ制作中である。現在、香川大学教授、四国二期会理事長。

片岡 純也 ＋ 岩竹 理恵

Junya Kataoka + Rie Iwatake

身近にある物を観察してその本来の意味や機能とは離れて、形の特徴を作品化している。近年は、MOT アニュアル 2020「透明な力たち」東京都現代美術館 (2020) に参加。

川島 大幸

Hiroyuki Kawashima

1987 年静岡県生まれ。2016 年に東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻彫刻研究領域を修了。2020 年にアーティストコレクティブ「GAZO」を服部公太郎、植田工、鈴木啓太と結成。個展「川島大幸展」（ギャラリー現、東京、2014）。主なグループ展に「Venus Bound」（Whitespace、UK、2019）、「時間 / 彫刻 - 時をかけるかたち -」（東京藝術大学大学美術館陳列館、東京、2019）など。

川島猛とドリームフレンズ

Takeshi Kawashima & Dream Friends

川島猛：1930 年香川県高松市生まれ。
2010 年香川県でドリームフレンズ結成。

【主な展覧会】

2019/16/13/10　瀬戸内国際芸術祭（男木島、香川）
2015　海を渡ってきた日本人芸術家たち展・啓発と探求の日米交流（日本ギャラリー、ニューヨーク、アメリカ）
2011　Surface Truths: Abstract Painting in the Sixties（ノートン・サイモン美術館、カリフォルニア、アメリカ）
2010　Will Barnet and The Arts Students League（フィリス・ハリマン・メイソン・ギャラリー、ニューヨーク、アメリカ）

【主な賞歴】

2010　地域文化功労者文部科学大臣表彰

木ノ下歌舞伎

（監修・補綴：木ノ下裕一、演出・振付：白神ももこ）

Kinoshita-Kabuki

(Supervisor/Dramastage: Yuichi Kinoshita,
Director/Choreographer: Momoko Shiraga)

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を中心に 2006 年より活動を展開している。

鴻池 朋子
Tomoko Konoike

彫刻、手芸、声など様々なメディアを用いて動物との言語の境界を表現。地形や気候なども巻き込むサイトスペシフィックな展示も行い、芸術の根源的な問い直しを試みている。2017 年個展「根源的暴力」（群馬県立近代美術館）にて芸術選奨文部科学大臣賞、2018 年「Fur Story」Leeds Arts University（イギリス）、2020 年個展「FLIP ちゅうがえり」（アーティゾン美術館）にて毎日芸術賞受賞。2022 年夏より高松市美術館を皮切りに、静岡県立美術館へと巡回展を予定。

コシノジュンコ
Junko Koshino

1978年から22年間パリコレクション参加。以降、北京、NY（メトロポリタン美術館）、キューバなど世界でショーを開催。国際的な文化交流に力を入れる。ブロードウェイミュージカル「太平洋序曲」（トニー賞ノミネート）、JOC セカンドエンブレム等を手掛ける他、国内被災地への復興支援活動も行っている。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員、2025 年国際博覧会誘致特使、平成 29 年度文化功労者。2021 年フランス政府より「レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ」受賞。近著「コシノジュンコ 56 の大丈夫」(世界文化社)。

KASA/
KOVALEVA AND SATO ARCHITECTS
KASA/Kovaleva And Sato Architects

アレクサンドラ・コヴァレヴァと佐藤敬によって 2019 年に設立。東京とモスクワを拠点に活動する日露建築家ユニット。

【受賞歴】

2021　第 17 回ヴェネチアビエンナーレ国際建築展「特別表彰」

2021　Architect of year 2021 ELLE DECORATION

2019　SD レビュー 2019「鹿島賞」

・アレクサンドラ・コヴァレヴァ | Aleksandra Kovaleva

2019 - KASA 共同主宰

2014　石上純也建築設計事務所

2014　モスクワ建築学校 MARCH 大学院 修了

1989　モスクワ生まれ

・佐藤 敬 | Kei Sato

2020 - 横浜国立大学 大学院 Y-GSA 設計助手

2019 - KASA 共同主宰

2012　石上純也建築設計事務所

2012　石上純也建築設計事務所

2012　早稲田大学 大学院 修了 (石山修武研究室所属)

1987　三重県生まれ

M

眞壁 陸二

Rikuji Makabe

1971 年石川県生まれ。

【主な展覧会】

2021　Northern light（黒部市美術館、富山）
　　雨あがり空のむこう（Gallery O2、石川）
　　ART at FULIANG　（江西省浮梁県、中国）
2020　緑の階調 （Cassina ixc DELL'ARTE、東京）
2019　阳澄湖泰康美術館 壁画制作 （蘇州、中国）
2017　奥能登国際芸術祭「青い舟小屋」（石川）
2016　瀬戸内国際芸術祭「咸臨の家」（本島、香川）
　　日本ベルギー国際交流展（金沢 21 世紀美術館、石川）
2015　森 / 序景（ベイスギャラリー、東京）
2012　SUSTAINABILITY（triumph gallery、モスクワ、ロシア）

ままごと

Mamagoto

2009 年設立。

振付・演出：康本雅子　　戯曲：柴幸男
衣裳：南野詩恵　　出演：石倉来輝、小山薫子
制作：加藤仲葉、宮永琢生

【主な公演・プロジェクト】

2019/16/13　瀬戸内国際芸術祭（香川）
2018 ～ 2019　「ツアー」（ST スポット、神奈川・静岡・新潟ほか）
2017　「わたしの星」（三鷹市芸術文化センター、東京）

三宅 之功

Shiko Miyake

1976 年 大阪府堺市生まれ。 兵庫県三田市在住 。
硬く普遍的な彫刻のイメージから離れたものを作ろうと考え、2010 年頃から植物を素材として組み込んだ有生彫刻を制作している。有生彫刻とは、時と共に変化し続ける生のある彫刻を表す造語。四季の変化を感じ、その場所と共に存在し、呼吸し続けるような物体を作りたいと考えている。

【主な受賞】

2019　第 28 回 UBE ビエンナーレ大賞 宇部市賞（山口）
2017　第 15 回 KAJIMA 彫刻コンクール 模型入選（東京）
2013　第 2 回 UBE ビエンナーレ下関市立美術館賞（山口）

撮影：松尾宇人

村田 のぞみ

Nozomi Murata

1994 奈良市生まれ。

【主な展覧会】

2020　「残り香 - ここにあるということ -」（KYOTO ART HOSTEL kumagusuku、京都）
2020　「ALLNIGHTHAPS2019 後期 -Kangaru-」（HAPS、京都）
2020　「ウィルヘルミーの吊り板」（京都）
2019　「瀬戸内国際芸術祭 2019」（高見島、香川）
2019　個展「BUBBLES」（KUNST ARZT 、京都）
2018　個展「Through the lines」（KUNST ARZT、京都）

村山 悟郎

Goro Murayama

1983 年東京生まれ。アーティスト。博士 (美術)。東京芸術大学油画専攻にて非常勤講師。東洋大学国際哲学研究センター客員研究員。自己組織的なプロセスやパターンを、絵画やドローイングをとおして表現している。

【主な展覧会】

2021　多の絵画（The POOL、広島）
　　六甲ミーツアート芸術散歩 2021（神戸）

2020　Painting Folding（Takuro Someya Contemporary Art、東京）
　　-Inside the Collector's Vault, vol.1- 解き放たれたコレクション（WHAT、東京）

2019　21st Domani 明日展（国立新美術館、東京）
　　瀬戸内国際芸術祭 2019（男木島、香川）
　　あいちトリエンナーレ 2019 情の時代（愛知）

N

南条 嘉毅

Yoshitaka Nanjo

1977 年 香川県生まれ。

2021　奥能登国際芸術祭 2020 ＋「スズ・シアター・ミュージアム　光の方舟」キュレーター / 演出

2020　和歌山市民図書館　壁画「梛の木の下で」

2019　瀬戸内国際芸術祭（香川）
　　個展（坂出市民美術館、香川）

2017　奥能登国際芸術祭 2017
　　高松市美術館　高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.06 ／物語る物質展示風景

直島女文楽

Noshima Onna Bunraku

江戸時代から芸能が盛んだった天領・直島で、一度は下火になっていた文楽を女性 3 人が再興。1955 年、香川県無形文化財に指定。現在も香川県無形民俗文化財として受け継がれている。

西山 美なコ

Minako Nishiyama

1965 兵庫県生まれ

【主な展覧会】

2017　個展「西山美なコ /wall works」（Yoshimi Arts、大阪）

2015　On the exhibition Room（CAS、大阪）

2015　おおいたトイレンナーレ（大分）

2014　六甲ミーツ・アート芸術散歩（神戸）

2013　瀬戸内国際芸術祭（高見島、香川）

2013　「アートにみる愛のかたち Love 展」（森美術館、東京）

O

Asaki Oda

Asaki Oda

神奈川県生まれ。幼少時代をブラジルのサンパウロで過ごす。ニューヨーク州立大学パーチェス校で舞台装置を学び、ブロードウェイ・東京にてミュージカルや舞台の仕事に関わる。その後アメリカ、サンフランシスコベイエリアへ拠点を移し、ウィンドウディスプレイへ転向。アメリカ発祥セレクトブランド Anthropologie のウィンドウディスプレイアーティストとして活躍。現在フリーのアーティスト・デザイナーとしてサンフランシスコベイエリアを中心に活動中。@ asaki_ichi

大岩 オスカール

Oscar Oiwa

1965 年、ブラジル生まれ。現在、アメリカを拠点に活動する。主な展覧会に、「The Dreams of a Sleeping World」(2008、東京都現代美術館、東京)、「瀬戸内国際芸術祭 2013」(2013、香川)、「大岩オスカール 光をめざす旅」(2019、金沢 21 世紀美術館、石川)、「Dreams of a Sleeping World」(2019、USC アジア太平洋美術館、アメリカ)、「奥能登国際芸術祭 2020 +」(2021、石川)など。

尾身 大輔

Daisuke Omi

1992 年 香川県生まれ。

【主な展覧会】

2016　瀬戸内国際芸術祭(小豆島、香川)

2015　対馬アートファンタジア広島ー対馬(泉美術館、広島)

　　彫刻の五・七・五(沖縄県立芸術大学)

　　三都半島アートプロジェクト《潮耳荘》(小豆島、香川)

P

ソピアップ・ピッチ

Sopheap Pich

1971 年、カンボジア生まれ(在住)。カンボジアを代表する現代アーティストの一人。彼の作品は、カンボジア固有の手工芸品や素材に対する真摯な敬意と情熱を、洗練された現代的な構造で表現している。第 57 回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2017 年)やドクメンタ(ドイツ・カッセル、2012 年)など、多くの権威ある国際展に出品している。日本では、森美術館、東京都現代美術館に作品が所蔵されている。

S

切腹ピストルズ

Seppuku Pistols

【主な公演・プロジェクト】

2019　瀬戸内国際芸術祭（香川／岡山）

2018/15　大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

2017　酉年式年大祭奉納演奏（武蔵御嶽神社、東京）

2016　東アジア文化都市開会式（奈良）

2016　瀬戸内国際芸術祭（香川／岡山）

2015　猿田彦神社奉納演奏（伊勢神宮内宮前おはらい町、三重）

瀬戸内少女歌劇団

Setouchi Girl's Theatre

2019　瀬戸内国際芸術祭 2019 秋会期のために一般公募により結成

Photo by Didi Sattmann

エステル・ストッカー

Esther Stocker

1974 年、イタリア生まれ。ウィーン（オーストリア）在住。幾何学的な記号とグリッドシステムの光学的に複雑なスペクトルが用いられた作品で知られる。黒、グレー、白の 3 色のみで構成されたシステムを用いて、3 次元のウォークスルー・ストラクチャーや空間インスタレーションを制作する。最近では 2021 年「今年の越後妻有」（新潟）、2016 年瀬戸内国際芸術祭（岡山、香川）に参加。

鈴木 健太郎

Kentaro Suzuki

1996 年 京都府生まれ。

【主な展覧会】

2021 「鈴木健太郎 個展 -FIGURE AND GROUND-」(ギャラリーマロニエ / 京都)

2021 「先客万来 - 人と魚、道と繋がりと」(ギャラリー DERTA/ 京都)

2020 「鈴木健太郎 個展 -TRACE-」(ギャラリーマロニエ / 京都)

2020 「創造的ドローイング展」(京都精華大学 春秋館 / 京都)

2019 「第 33 回京都芸術祭 美術部門 国 際交流総合展」(京都市美術館別館 / 京都)

2019 「第 5 回 石本正日本画大賞展 (入選)」(浜田市立石正美術館 / 島根)

2018 「第 2 回新日春展 (入選)」(東京都美術館 / 東京、京都市美術館別館 / 京都)

Photo by Kristoffer Paulsen

ヘザー・B・スワン＋ノンダ・カサリディス

Heather B Swann+Nonda Katsalidis

ノンダ・カサリディスはオーストラリア出身の数々の賞を受賞した建築家で、フェンダー・カサリディス・アーキテクツを設立し、取締役を務める。ランドマークとなるような高層商業施設や住宅、美術館に加え、持続可能な建築技術の開発や、公共空間に芸術と建築を独創的に融合させるプレイスメイキングで知られる。

ヘザー・B・スワンはオーストラリア出身のアーティストで、主に彫刻とドローイングを中心に、ペインティングやパフォーマンスも手がけている。彼女の作品は、主に人間の感情やジレンマを反映した具象的なもので、その身体的なフォルムは、先史時代、古代、中世、そして現代から等しくインスピレーションを受けている。来年の瀬戸内国際芸術祭ではコラボレーションで作品を出展する。

T

市民煎茶グループ 曙

Tea Ceremony Group Akebono

1985 年、香川県坂出市で結成。代表：大塚律子

【主な活動】

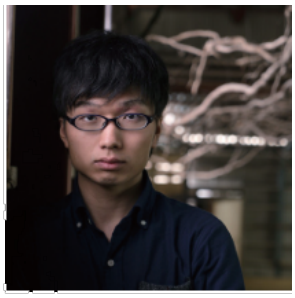
2019　瀬戸内国際芸術祭（香川）

2018　サウサリート（アメリカ）の小学生に煎茶パフォーマンスとワークショップ

2018　ドイツの交換留学生に七夕茶会パフォーマンス

2017　交流茶会（ヤンゴン、ミャンマー）

2016/13　瀬戸内国際芸術祭（沙弥島、香川）



竹腰 耕平

Kohei Takekoshi

1992 年 岐阜県出身。

【主な展覧会】

2019　瀬戸内国際芸術祭（香川）

2019　企画展 サイトスペシフィック・アート - 民俗学者・宮本常一に学ぶ -（市原湖畔美術館 、千葉）

2018　Gangwon Environmental Installation Art Exhibition（韓国）

2018　大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

2018　韮崎市「幸福の小径」立体作品設置事業 [韮崎市長賞]（山梨）

鐵羅 佑

Yuu Tetsura

1998 年 愛知県生まれ。

【彫刻】

2021 「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2021」（六甲山、兵庫）

2021 「A-Lab ArtistGate2021」（A-Lab、兵庫）

2020 「立体造形三回生 進級展」（妙満寺、京都）

2019 「立体造形三回生 秋展覧会」（京都精華大学 GALLERY FLEUR、京都）

【舞踏】

2021 とりふね舞踏舎 30 周年記念二都公演「sai」（KAAT、神奈川 / 京都教育文化センター、京都）

2019 とりふね舞踏舎 作舞踏公演「令和元年 神無月」（アンスティチュ・フランセ京都、京都）

2019 暗黒舞踏研究会 nosB 第三回公演「Huhnchen」（京都精華大学明窓館、京都）

2019 「ラプラタ川」公開ゲネプロ幕間ゲスト（ロームシアター京都、京都）

2019 ベビーピーの旅芝居

豊福 亮

Ryo Toyofuku

1976 年 東京生まれ。千葉を拠点に活動。

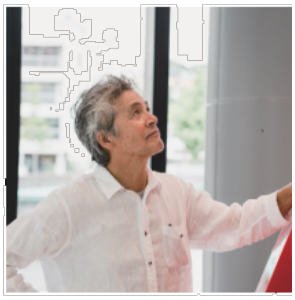
2020 いちはらアート×ミックス 2020〈アートディレクターとして参加〉

2014 ～ 中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス（千葉）

2010/13 瀬戸内国際芸術祭（瀬戸内）

2006 ～ 越後妻有－大地の芸術祭（新潟）

U



内田 晴之

Haruyuki Uchida

2013/16/19 瀬戸内国際芸術祭（香川、岡山）

2009/12/15/18 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

2006/07/08/09/15 Sculpture by the Sea（シドニー、パース、デンマーク開催）

1998 第 29 回中原悌二郎賞優秀賞受賞

1997 第 17 回現代日本彫刻展 [大賞] / 宇部市常盤公園

W

ワン・ウェンチー（王文志）

Wang Wen-Chih

1959 年、台湾生まれ。竹を使った巨大な建築物をつくることで知られる。アジア、ヨーロッパ、北米と、世界中で作品を発表し続けている。瀬戸内国際芸術祭と所縁の深いアーティスト。

【主な展覧会】

2020/18 Taoyuan Land Art Festival（桃園、台湾）

2019/16/13/10 瀬戸内国際芸術祭（小豆島、香川）
Taiwan Lantern Festival（屏東県、台湾）

2016 Woodford Art Festival（オーストラリア）

2015 水と土の芸術祭（新潟）

Photo by Tukei Muhumuza Peter

ドナルド・ワッスワ
Donald Wasswa

1984 年、ウガンダ生まれ、カンパラ在住。Artpunch Studio 主催。Wasswa の作品は、現代社会における科学技術の影響を考慮し、人類の未来についての対話を促すような作品で知られる。与えられた環境に対する人間、社会的相互作用、そしてそれに関わるコミュニケーションの性質に主な焦点を当て、変化のプロセスを研究している。

チャールズ・ウォーゼン
Charles Worthen

1958　アメリカ生まれ

【主な展覧会】

2016　瀬戸内国際芸術祭（小豆島、香川）

2014　現代の造形 -Life & Art-（東広島美術館、広島）

2012　個展（ギャラリー 16、京都）

シャン・ヤン（向阳）
Xiang Yang

1967 年 中国生まれ。現在は中国とアメリカを拠点に活動。中国の伝統である哲学と宗教思想、美術と工芸を、西洋の現代美術の実践で出会った新しい範囲の素材、形態、批判的思考と合成した作品を制作する。近年は、「大地の芸術祭 2018」や「瀬戸内国際芸術祭 2019」など、日本の主要な芸術祭にも参加する。

2021　個展「Encounter」（WF セントラル、北京、中国）
　　個展「Detachment and Transfiguration」（Icicle Space、上海、中国）
　　Art at Fuliang（浮梁県寒渓村、中国）

2019　「Spirit of Ink Art」(Jining Art Museum、済寧市、中国）

2018　大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

Y

山下 茜里

Akari Yamashita

1997 年 大阪府生まれ。

【主な展覧会】

2021　山下茜里個展 -beyond the skin-（楽空間 祇をん小西、京都）

2021　第 23 回染・清流展（染・清流館、京都）

2021　体内で満ちて（ART SPACE NUI、京都）

2021　A-Lab Artist Gate 2021（あまらぶアートラボ A-Lab、兵庫）

2021　SUIKEI ART FAIR OSAKA（Zentis Osaka、大阪）

2020　YAMASHITA Akari solo exhibition-BORDER-（KUNST ARZT、京都）

YAMASHITA Akari solo exhibition-PANOPTICON-（gallery maronine、京都）

2019　第 22 回染・清流展（染・清流館、京都）

2017　第 55 回兵庫県展 部門大賞（知事賞）工芸部門

よるしるべ

Yorushirube

観音寺の夜の街中を巡るイベント「よるしるべ」。2022 年は梶高 慎輔・梶高 果代、槙 黄州、斎藤 幹男が参加予定。

・『まるみデパート』

梶高慎輔、梶高果代によるアートユニット。広島県尾道市の古い医院をリノベーションしてショップ運営から地域振興まで多彩な活動を行う。2008 年からドピカーン観音寺イベントに参加。2010 年観音寺市立南小学校にてアーティスト・イン・スクールの招聘アーティストとして CM 制作を行なう。2011 年夜のまち歩き～よるしるべ～を企画、制作。2011 年開催の「よるしるべ」創設メンバーとして、例年のよるしるべに参画、映像と香りを用いたインスタレーション作品を夜の町に点在させる。

・槙 黄州

1959 年香川県観音寺生まれ。

1985 年香川県三豊市豊浜町に穴窯を築き、李朝陶技を駆使した作品と合わせて須恵器をベースとしたオリジナルな炭化焼締の作品を制作し始める。2004 年には、香川県（現）三豊市財田町に工房を移転。その後、ドイツのベルリン・ハンブルグ・デュッセルドルフ 3 都市のギャラリー WOHNEN und KUNST にて個展開催。盛況に終し、ドイツの陶芸専門誌「Keramik Magazin」に掲載される。2008 年からドピカーン観音寺イベントにワークショップ講師として参加。以来、ドピカーン観音寺イベント及びよるしるべに毎年参加している。

・斎藤 幹男

1978 年札幌市生まれ。2002 年シュテーデル美術大学（フランクフルト、ドイツ）に進学、2007 年卒業。マイスターシューレ（博士号）取得。手書きの絵によるアニメーション、写真、CG など様々な種類のイメ ージを組み合わせ、アナログ・デジタル双方の魅力を引き出す映像作品を主に制作し、国内外のギャラリーや美術館等で作品を発表している。2009 年より札幌市を拠点とし、市民参加型のワークショップ形式の作品制作や音楽家とのコラボレーション、映像以外の分野での発表も積極的に行っている。近年参加した主な展覧会に「札幌国際芸術祭 2017」、「Keelung Ciao」（基隆、台湾、2017）、「パラビオの森」（舞鶴、2016）などがある。

（写真は、左からまるみデパート、槙 黄州、斎藤 幹男）